



あだち野のむかし物語

ずーっと、ずーっと、昔ナイ。

木幡の幡祭り①

木幡の幡祭りは、日本三大幡祭りの一つといわれ、約960年の歴史と伝統をもつお祭りです。白旗を先達に、赤、青、黄、緑と、色とりどりの五反旗、百数十本が勢揃いし、法螺貝を吹き鳴らしつつ木幡山の尾根を縦走します。

この祭りの由来は、前九年の役の天喜三年(1055年)にまで遡ります。後冷泉天皇の命を受け、陸奥征伐に出向いた源頼義とその子八幡太郎義家(源義家)の率いる軍勢は、安達の川崎辺りでの戦いで、安倍貞任、宗任兄弟に敗れ、わずかに数騎で阿武隈川を越えて逃れてきました。その当時は「外木幡」といったそうですが、今は「御所平」という所にある農家まで逃げて来て一夜の宿をとったのでした。

すると、その夜、天女が夢枕に現れ、「ここから東方一里ばかりにある弁財天宮で祈願しなさい。そうすれば願いが叶うであろう」と、お告

げになりました。

源頼義、八幡太郎義家父子らは、さつそく、昔「いさずめ」と言っていた今の木幡山へ馳せ参じ、神社で戦勝を祈願しました。一方、安倍頼時は、その子安倍貞任、宗任兄弟を従え、伊達の信夫に陣を構えたのでした。そしてその軍勢が迫りかけて来たといえます。今の「針道」のところから、下馬という所まできたのだそうです。

その夜は、旧暦の11月18日のことといえますから、木幡山の杉は北の方に枝がなくて、南の方にばかり枝が付いていたのですが、それにどっさり雪が降り積もりました。

安倍兄弟は、敵を皆殺しにしてくれようと思つて、勇んで攻めてきたのですが、下馬の所へきて見てみると、源氏の白旗で山がいつぱいになり、軍勢が大勢いるかのように見間違えてしまったのです。目をむいて驚き、さしもの安倍貞任、宗任も馬

の手綱をぎゅっと引き締めたといいます。すると、馬がびっくりして、後退りしてしまったというので、今でもその場所を「至去」というのだそうです。安倍の軍勢は戦わずして引き返してしまいました。

(12月号へ続く)



▲木幡山



あだち野のむかし物語
安達地方広域行政組合
ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和6年1月～9月末)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗	1	1		1		3	
空き巣	1	1				2	-3
出店荒し	1	3	4(1)	1		9(1)	-3
その他	6	8		1(1)		15(1)	-12
非侵入盗	4	1				5	4
万引き	16(1)	16	24(1)	15(2)		71(4)	36
車上ねらい	5	2		2(2)		9(2)	-3
自転車盗	2		1			3	-1
器物損壊	2(1)		1	1		4(1)	2
住居侵入	13(2)	4	2		2	21(2)	-11
その他	51(4)	36	32(2)	21(5)	2	142(11)	9
合計	-23	-5	21	16		9	
前年対比							

※()は9月の発生件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる
「ながら見守り」活動の
協力をお願いします。



～福島県警察スマートフォンアプリ～

今すぐ!

POLICEアプリふくしま
のインストールをお願いします。



みなさんが
被害に遭わないための
最新機能を搭載しています!

インストールはこちら
POLICEアプリふくしま



POLICE
ふくしま

二本松警察署電話 23-1212